

国連のテロリスト・ブラックリストから除外された軍団によるシリアの虐殺

【訳者注】引用されているツイッターの主が「嘔吐にご注意」と言っているように、この時期、米務省の報道官ほど悲しい役職はない。このことは前にも述べた。これは一人の役人だけの問題でない。これはワシントンと、ワシントンをサポートする、世界の 3 分の 1 の政府とメディアの、心にぽっかりあいた穴である。ウソと隠ぺいによって世界を支配することほど、悲しく空しいことはない。

RT (Russia Today)

May 13, 2016

<https://www.rt.com/news/342983-syria-zara-carnage-alsham/>

アラウィー派のシリアの村 Zara の目撃者たちが、Ahrar al-Sham 集団とアルヌスラの兵士たちの手による、残忍な虐殺と誘拐があったことを、RT に明らかにした。今週、西側諸国はこの武装グループを、国連のテロリスト一覧に加えることを阻止した。

アフラル・アルシャムは、スンニ派イスラムの厳密なサラフィズムを信奉するが、彼らは、アルヌスラ・フロントと共に戦っていたことが報告されている。アルヌスラは、米露の仲介するシリアの停戦協定によって保護されない、国際的に認められたテロ組織である。

このグループは、この襲撃を行ったことを認めたが、抵抗しなかった者たちを不当に扱いはしなかったと主張した。

「市民を狙いはしなかった。それどころか、どの派閥も、市民を傷つけない、そして捕虜を人道的に扱う最大の努力をした」と、アフラル・アルシャムの代表は、ロイター通信の引用で述べている。

しかし、アラビア語 RT と話したこの村の住人たちは、この出来事の全く異なる話をし、この部落の襲撃を戦争犯罪だと主張した。

「彼らは老人たちを殺し、子供や女を捕虜として連れていった。彼らがその後どうなったか知りたいのだが…。我々は全く何も知らない」と、自分も負傷している **Abdou Khalifa** は、このチャンネルに語った。

http://twitter.com/mouqawama/status/730745830433382400/photo/1?ref_src=twsrc%5Etfw

(アルカーイダとその連合軍が、ホムス郊外の **Al-Zara** 村のアラウィー派市民を襲撃し、民族浄化をした。)

「見知らぬ者たちが我々の村にやってきた。彼らはほとんど外国人だった。彼らの顔つきからシリアの者でないことがわかった。彼らは我々の村を襲撃し、多くの者が殺された。私の兄弟もその一人で、彼の子供たちは負傷した。彼らは家族全員を殺した」と、**Ahmad Muhammad al Qasem** は話した。

「彼らは皆殺しを準備していた」と、別の村人 **Munzer Qasem** は言った、「2つか3つの家族は全員が殺されたと聞いている。**Abu Naval** の家族はみな殺された。彼は老人だったが、娘たちと一緒に殺された。彼らは自分の家の中で殺されたんだよ。」

http://twitter.com/Irmak_Ye/status/731135080417087489/photo/1

(シリアのアラウィー派の村 **Al-Zara** における“穏健派”反乱軍の血の風呂)

村人たちは、何十人もの人々が、殺されるか、イスラム主義襲撃者によって人質に取られたと言った。これらの話は、シリア国家テレビジョンが映し出し、社会メディアに現れつつある説明と、ほぼ完全に一致する。

社会メディアに出た残酷な写真の一つは、襲撃した **Ahrar al-Sham** の兵士たちが、数人の女性の血まみれの死体の上に立っている所を示している。この集団は、この写真が本物であることを否定しなかったが、女たちが銃を持っていて、戦闘によって殺されたのだと主張した。

アメリカは、アフラル・アルシャムを非難することを拒否

この事件は、ワシントンにとって極まりの悪いものだった。なぜなら彼らは、この集団を、もう一つの戦闘運動 **Jaish al-Islam** と共に、テロ組織として指定すべきだという、ロシアの長年の提案を退けていたからである。彼らの過激なイデオロギーと、アルカーイダに影響されたテロ集団との協力がその根拠だった。

もしロシアのイニシアティブが、国連安保理に受け入れられていたら、この2つの集団は、シリア、ロシア、および西側の空爆の合法的な対象となっていたであろう。そして国際平和会談の間、壊滅的になったシリア“反政府軍”の一部を代表する、サウジの支持による「高等調停委員会」で、立場をなくしていたであろう。

しかし、ロンドン、パリ、ワシントン、およびキエフは、ロシアの提案を拒否し、アメリカの関係報道官は、「戦闘を中止することに賛同した集団を指名することは、我々が現地の戦闘状況を鎮静させようとしているときに、停戦への破壊的な結果をもたらすことになる」と言った。

米務省は、Zara村の占領中の出来事は「受け入れられないもの、理解できないもの」だと認めたが、アフラル・アルシャムを責めたり、この集団のアルヌスラとの協力をはっきり非難することは拒否した。

<http://twitter.com/walid970721/status/731221661563781120/photo/1>

(Kirby報道官がZara村事件について、アフラルの行為とアルヌスラとの同盟関係を問われ、こう答えている。嘔吐にご注意。)

「アシャール・アルイスラム(?)は・・・指定された外国テロ組織ではありません、したがって停戦に賛同しています。そして我々が彼らに期待するのは、この停戦に賛同するあらゆる者に期待することと同じで、それを守り、それに従うことです」と国務省報道官は、ワシントンの金曜日の記者会見で言った。「そして、我々がずっと言ってきたことですが、はじめがはっきりしないことがあるのです。そしてある程度まで、ある種の反政府集団とアルヌスラの間、困った協力関係が見られるのです。私はここでも、この襲撃のことだけを行っているわけではありません。」

この報道官はまた、国務省はこの集団が、指定されたテロ組織と協力していることで、ブラックリスト入りを脅迫したことはなかったと認めたが、アメリカは、その期待を「非常に明白に」表明していたと繰り返した。

「高等調停委員会の一部である者たちと武装反政府集団には、彼らの振舞いと停戦に対する行動についての我々の期待を、我々は非常に明らかにしています」と、ジョン・カービーは述べた。

